

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年7月号 通巻31号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

消えゆく都心の緑地

それはタヌキに必要なもの、そして人間にも



[左]文京区のマンション建設予定地(2011年6月撮影)。植物が繁茂していて、タヌキも生息している。

[右]杉並区の企業用地。撮影は2007年9月で、住宅地の建設が始まっていた。ここでもタヌキはよく目撃されていた。

なぜ東京都23区のような大都会にタヌキが生息しているのでしょうか。その究極的な答えは「食べ物があるから」ということになります。食べ物がなければどんな動物も生きていきません。23区内にはタヌキの食べ物が十分に存在しているのです。

タヌキ生息は自然がある証拠

タヌキが食べるものはフンを分析することで傾向がわかります。フンから最もよく出てくるのは昆虫です。昆虫の中でも植物の生えた地面、落ち葉のつもった地面にいるような種類、例えばゴミムシなどをよく食べています。昆虫ではありませんがムカデも食べています。

植物の中では果実が大好きなようです。カキノキ(柿)、イチョウ(銀杏)、ムクノキなどの種子がフンの中からでできます。

東京は大都会ですが、タヌキのフンの分析によって昆虫や植物が意外とたくさんあることがわかります。昆虫や植物は、さすがにビル街やオ

フィス街にはあまりありません。しかし、住宅街に行けば庭に柿がある民家はあちこちにありすし、公園や神社などにはイチョウなど多くの樹木があります。昆虫が好むのも植物が多い場所です。つまり植物が多いほどタヌキにとっての食べ物も多く、暮らしやすいということになります。実際、タヌキは緑地やその近辺での目撃が多い傾向があります。タヌキが生息しているということは、ある程度の豊かな自然環境がそこに存在することの証拠でもあるのです。

残る緑地、残らない緑地

都会の緑地の代表は緑地のある大きな公園です。神社や寺の敷地も植物が多く好環境です。これらの緑地は半永久的に存続するので、タヌキにとっては安定した生息場所になります。

この他にも企業用地(運動場など)や個人所有地(屋敷林)なども都会の緑地です。しかし、こちらは不安定

な自然環境です。企業用地は景気が悪くなればさっさと売り払われますし、個人の土地は相続税の都合などで売却されたりマンションが建ったりします。こういった土地では緑地の復活はまずありえず、減少する一方です。タヌキのためにはこのような緑地も維持してほしいものです。タヌキのためだけではありません。このような環境には鳥や爬虫類、両生類など多様な生物も生息できます。それに人間にとっても緑地は必要なものだと思いますか？

以前ならこのような「人間よりもタヌキ」という考え方はあまり受け入れられませんでした。しかし、最近では風向きも少し変わってきたように感じられます。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>